

《影のない女》と「第1次世界大戦」のお話

2021/10/13



NHKの講座の秋期は、まず、リヒャルト・シュトラウスの楽劇《影のない女》で始めます。大変な大作で、大変な名作です。ときは古いお伽噺の時代、ところは東方の架空の国。世界は霊界と人間界に分かれていました。人間界はまた、天上界と地上界に分かれていました。霊界の魔王カイコバートには、一人の可愛い娘がいました。娘は、魔王と人間の女との間に生まれたので、霊界だけでは飽きたらず人間の世界に憧れていました。娘がしきりに人間の世界に行きたがるので、魔王は仕方なくこれを許します。人間界に下った娘は、天上界の皇帝に捕まって皇后にされてしまいました。怒った霊界の魔王カイコバートは、「一年以内に二人の間に子供が産まれなかったら皇帝は石にしてしまう」と呪いをかけました。しかし、皇后は霊界の娘なので身体が光り輝いていて、影が出来ず、子供が生まれません。影を得るためには、

人間をだまして影を手に入れるより他ありません。皇后は乳母を連れて、人間がいる下界へと降りていきます。

この楽劇が初演されたのが、第 1 次世界対戦（1914-1918）が終わったばかりの 1919 年のウィーン国立歌劇場でした。戦後の暗い絶望的な社会に生きることを運命づけられた、多くの影のない人たちのゆれる心理を描いた現代劇です。重いテーマですが、最後は愛と希望と生命に満ちあふれた感動的な世界が出現します。映像は、初演後 100 年の 2019 年、初演の劇場ウィーン国立歌劇場で上演された記念すべきものです。DVD は伊藤豊さまからお借りしました。ありがとうございます。

都築正道